

# 四十年振りのハルピン

上村(川瀬) 嶺子 (68回)

私は昭和二十八年八月迄、小学校一年生後半から六年生の半ばまでの約六年間をハルピンで過ごしたので、ハルピンは私にとって大変思い出の多い故郷です。そのハルピンは一九九四年九月中旬約四十年振りに両親と主人の四人で久方振りに訪れる機会に恵まれました。

四十年前は三ヶ月もかかって瀋陽を経由して上海から帰国しましたのに比べ、今回は成田から北京迄四時間、北京からハルピン迄二時間の計六時間で目的地に着く事が出来ました。ハルピン空港から市内に至るポプラ並木の景色が既に懐かしく、ロバの引く馬車、高粱畑、赤レンガ造りの家並みなど子供の頃の記憶と同じ風景に感動しました。宿舎となったハルピン国際飯店(旧ホテルニューハルピン)のまわりの景色、近くの博物館など昔のたまたまいそのもので

した。幼い頃の記憶を頼りに博物館近くの目印から、普通つていた小学校を見つけ出す事が出来、本当に感無量の一時でした。現在はテレビ局の広告部になつてはいたものの、玄關奥のベチカ、廊下沿いの壁、校庭の樹木、校舎裏の石炭置き場など以前の状況そのままが残されており、同級生達と遊び廻つた頃の様子が目に浮かび消え行く感動に浸っていました。

一方宿舎の近くにあった中央寺院は既になくなっていました。が、近くの路上では果物、野菜、魚、本、衣類等をはじめ自転車、の修理屋さん迄日常生活必需品につながる種々の露天が林立していました。すっかり忘れかけていた黒い松の実のような食べ物、トウモロコシの粉で出来たクレープ風のチェンビン等当時と同じ物も売られていました。街中はトロリーバスをはじめ小型バス、タクシー、リヤカー、自転車等あらゆる交通手段の往来が激しく、活気溢れる生活状況に感銘致しました。

翌日、松花江と太陽島を訪れました。子供の頃家族で泳いだり、遠足や釣りを楽しんだ場所がなつかしく、また太陽島には日本庭園が出来ていて、日中の交流が一段と進んでいる事を知りました。

最終日には父の以前の勤め先である東北農学院に向かいました。その途中にあった忠霊塔は今春、既に取り壊されていて彫も形もありませんでしたが、勤め先は現在ハルピン医科大学として無事であり、四十年前帰国の送別会を開いて頂いた事を懐かしく思い出しました。

現在、日本は治安の良さをはじめ、気候、政治、経済、道路、通信や教育等あらゆる面で本場に恵まれている事が外国と比較してよく理解出来ました。戦後の一時期には私も一命を落としかねない時に無事帰国出来、また最高学府の学校教育も受ける事が出来た事を大変感謝して居ります。

ハルピンをはじめ中国は現在

大変な建築ラッシュです。あの小学校もやがては取り壊される運命にあるのでしょうか、その前に今回訪問出来た事は本当によかったですと思います。中国人の活気溢れる生活状況は日本の戦後にも似ているかと思えますが、今から何年か後にはハルピンも素晴らしい近代都市に生まれ変わる事でしょう。

### 追記

青山同窓会報(平成十八年一月一日発行)に『中国生活の思い出』を掲載させて頂いた処、高校同期生の中のS氏が私と極めて似た経験をされながら同じ帰還船で中国から帰国されている事を知り大変びっくり致しました。